

市立病院 だより ③

医療の崩壊

平成15年度までは当院には40人以上の医師がいました。

平成16年4月からの新臨床研修医制度導入を直前に控え、北大脳神経外科教室は、当院への脳外科医派遣を中止すると通告してきました。宗谷にも医療崩壊の第一波が押し寄せます。脳神経外科の救急医療は、それまで慢性期医療だけを行っていた稚内積心会病院にお願ひすることになりました。

翌平成17年度には、固定医が2人だった麻酔科が出張医1人体制になり、現在も出張医体制が続いていますが、1年365日宗谷に麻酔科医がいない日がないように旭医大麻酔科教室のサポートを受けています。平成18年度は産婦人科常勤医2人から1人体制となりました。



院長 国枝 保幸

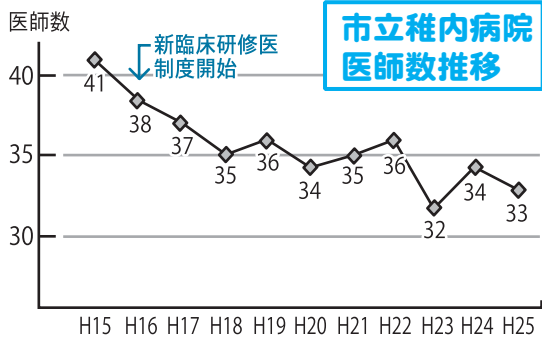
週末には耳鼻科医が1人もいない状態になりました。

平成21年度は、泌尿器科常勤医が1人体制になり、透析の仕事は外科の先生が担うことになりました。

そして、2人の固定医を出していた北大循環器内科が撤退を決定、平成23年度から循環器内科は札幌の民間病院からの出張外来だけとなります。以後、心筋梗塞などの救急疾患は主に名寄市立病院まで搬送せざるを得ない状況が続いています。

そして平成25年度は、私を含めて7人体制でやってきた内科が1人減員となりました。

市立稚内病院 医師数推移



ました。腎臓疾患・循環器疾患診療の負担増の中での減員です。

医師確保に奔走

このように年々医師が減少していく中で、前高木院長の在任期間は、毎年医師確保に翻弄された11年間と言えます。

医師の数が減ればそれだけ残っている医師の負担が増えます。医師が疲弊しない様支えてあげることが重要ですし、私にとって一番の使命は医師確保と云うこととなります。

「捨てる神あれば、拾う神あり」といいますが、悪いことばかりではないもので、平成19年度、産婦人科に川村光弘先生が赴任、平成21年度、耳鼻咽喉科に朝日淳仁先生が赴任し、産婦人科は現在の3人体制、耳鼻咽喉科は2人体制に復活しました。

国を初めとする行政や医系大学には地方の医療を守る力はありません。地域医療は今、現場で働く若い医師の熱い思いに支えられてかろうじて成り立っていると言っても過言ではありません。（次号につづく）

市立稚内病院庶務課
2312771

電子カルテ システム稼働!!

情報を統合し、診療の効率化を図る

市立稚内病院では、「患者サービスの向上」「医療の質の向上」「医療情報の精度の向上」を目的として、電子カルテシステムによる診療を7月7日（月）から開始します。

現在は、医師が行う診療指示の一部（処方・注射・検査・レントゲン撮影指示等）をコンピュータで指示する診療方法と、各科別に紙カルテによる診療方法を併用していますが、電子カルテシステムの導入により、ほぼ全ての医療情報がシステムに一元管理されます。

具体的にどうなるの？

同システムの導入により、患者の方の医療情報が必要な時に、あらゆる部門のシステムの端末から最新の情報を参照することが可能となります。

医師・看護師をはじめそれぞれの職員が、患者の方の状態を迅速かつ的確に把握できるようになり、診療の効率化を図るとともにチーム医療の促進にも繋がります。

人間とシステムで 何重もチェック

例えば、点滴治療を行う時などは、看護師が携帯型の電子カルテ端末を持って患者の方のもとへ



端末で点滴ボトルのバーコードをチェック

電子カルテシステムでは、院内全部門の医療が電子情報として有機的に結合され、統合的な一つのシステムとなって病院の医療が行われます。

予約診察の方も受け付けが必要になります

同システムの導入にあわせて、各科外来待合室に診察待ちの患者状況を表示するディスプレイを設置します。

これに伴い、「予約診察」で来院された方も一般再来で来院された方と同様に、1階ロビーに設置してある自動再来受付機で当日の来院受け付けをしていただきます。

この受け付けにより、予約診察の順番や時間が変わります。

るわけではありませんが、受け付け時に発行する番号表の番号が担当医ごとの診察までの順番として数名分を順次ディスプレイに表示されますので、番号表をしっかりと持ちください。

診察までの順番確認や待ち時間への不安を緩和、外来窓口でのトラブル解消のため、ご理解とご協力をお願いいたします。

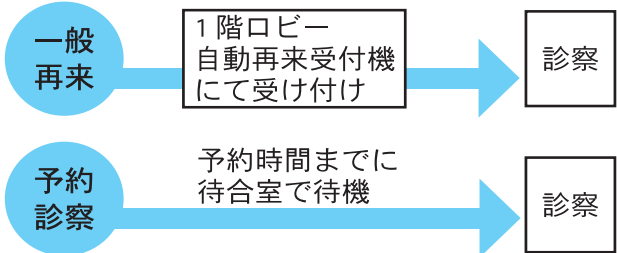
※なお、電子カルテのシステムトラブルを防ぐために万全の体制をもつて進めていますが、運用上の問題が発生した際は、システム担当者が診察室内に立ち入る場合がありますので、ご了承ください。

問い合わせ

市立稚内病院庶務課
2312771

受け付けから診察までの流れ

これまで



【新システム】7月7日から

